

令和2年 第1決算審査特別委員会討論要旨

◎ 会 派 清 新

会派清新を代表し、第1決算審査特別委員会に付託されました認定第1号「令和元年度滝川市一般会計歳入歳出決算」を可とする立場で討論いたします。

人口減少等、全国の地方自治体が抱える経済規模縮小傾向に歯止めが掛からず年々苦しい状況に変わりがない中、たゆまぬ行財政改革を推進され創意工夫で様々な対応に当たられている、前田市長をはじめ市理事者、関係職員の皆様のご努力に心から敬意を表します。

以下に数点意見を付します。歳入については「普通交付税、特別交付税の増」「少雪による冬季の支出減」など基金繰入額が大きく減り、後年度以降に持ち越すことが可能になったことが良く理解できました。ただ不確定要素が大きいことからさらなるご努力を頂きたい。

歳出では概ね適切な執行と判断しておりますが、1点目として「日本で最も美しい村連合」について触れておきたい。結果として連合から脱退することとなりましたが、改めて関係各位のこれまでのご努力に感謝申し上げます。会派としても道内加盟自治体へ出向き調査を行ってきた経緯もあり、脱退は大変残念な気持ちであります。今回の案件に関わらず新たなまちづくりに対する挑戦姿勢を継続していただくよう望みます。

2点目は、市立病院関係のコンサルタント契約に関してです。今回の審査過程において、コンサルとの業務締結資料を提供いただきましたが、あくまでも現状分析と改善計画や予想収支の作成が主な業務契約であると認識いたしました。例えば今回のコロナ禍での受診抑制への対応策など突発的な要因へ機能するのか、良く分からないのが正直な感想です。今後、基準を超えた市立病院への繰出しが数年単位で予想され、一般会計への影響が大きくなるのは申し上げるまでもありません。市立病院経営改善については、市長部局のこれまで以上の関わりに期待をします。

以上を申し上げまして、賛成討論といたします。

◎ 新 政 会

新政会を代表いたしまして、第1決算審査特別委員会に付託されました認定第1号「令和元年度滝川市一般会計歳入歳出決算」を可とする立場で討論いたします。

令和元年度は、将来を展望しまちの成長力を確保するために策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と厳しい財政状況を鑑み、持続可能な財政基盤を築くために策定された「滝川市財政健全化計画」を推進する最終年として、事務事業の効率化を図り効果的かつ重点的な行政運営に努力された市長をはじめとする理事者並びに職員の皆様に心より敬意を表します。

厳しい財政状況の中、一般会計で歳入213億9,561万円に対し、歳出205億7,176万円で差引8億2,385万円となり繰越明許費の翌年度繰越財源を差し引くと8億704万円の剰余を生じたことはとても評価いたします。

以下、若干の意見・要望を付して討論といたします。

1. 民生費

生活保護の被保護者に対し働ける状況にある方々には積極的な就労支援の継続を望みます。

2. 衛生費

新型コロナウイルスの影響により予防接種の接種者は減っていますが、市民が安心して予防接種を受けられるような新しい環境づくりと啓蒙活動に努力することを望みます。

3. 歳入

市税の徴収対策の強化により収納率を上げている他、ふるさと納税においては、ポータルサイトの拡充など積極的な推進により寄付額の大幅な増加がみられ財源確保に努力されている点は高く評価いたします。今後も積極的に推進し自主財源の確保に努めていただきたいと思います。

以上をもちまして討論とさせていただきます。

◎ 会 派 み ど り

会派みどりを代表して、第1決算審査特別委員会に付託されました認定第1号「令和元年度滝川市一般会計歳入歳出決算」を可とする立場で、以下若干の意見・要望を付して討論いたします。

令和元年度は、後半に新型コロナウイルス感染症の全国的蔓延が発生し、本市の財政運営が未曾有の厳しさを増す中でも、財政健全化計画最終年として、その計画に沿って各事業の見直しや財源確保を念頭に努力され、一般会計約8億円余の黒字決算をされた理事者並びに市職員の方々に敬意を表します。

(歳入)

ふるさと納税額は順調な伸びを収めました、気を抜かず社会変化に応じた新しい試みなどを心掛けてさらなる財源確保を検討されたい。

(歳出)

2款 総務費

市民からの要望等については、可能な限り検討し市政に活かす努力を願いたい。また危険空家については、市民生活の安全安心を第一に代執行などを積極的に実施されたい。市税徴収員は増員をして未納額の回収に力を入れていただきたい。

3款 民生費

ウィズコロナの中、特に高齢者の健康維持が危惧されます。市民サービスの低下にならないような安全で効率的な事業運営を心掛けていただきたい。

7款 商工費

市内商工業者に対して、使いやすくてためになる様々な支援制度を新たに設計されたい。

9款 消防費

災害に強い滝川市を作るために、備蓄品の増強並びに避難施設のソーシャルディスタンスも念頭にその対応を図られたい。

10款 教育費

江陵中学校と江部乙中学校の統合にあたり、入念な打ち合わせを行い、よりスムーズな移行準備を図られたい。

以上、会派みどりの討論いたします。

◎ 公 明 党

私は、公明党を代表し第1決算審査特別委員会に付託されました認定第1号「令和元年度滝川市一般会計歳入歳出決算」を可とする立場で討論いたします。

元号が平成から令和となり、消費税が8%から10%に引き上げされ、同時に外食と酒類を除く飲食料品などの税率を8%に据え置く軽減税率が導入された年でありました。また、台風大雨被害が相次ぎ、各地で土砂崩れ、河川が氾濫し、本市においても大規模災害に対応する備えが必要とされました。

そして、本市においては、着実な成果が求められる「滝川市財政健全化計画」の総仕上げの年でありましたが、持続可能な将来基盤を築くための取り組みをされました理事者・職員の皆様に敬意を表します。

一般会計では、市民サービスの低下を招くことなく8億2,385万円の剰余を生み、職員皆様の経費節減への努力が実を結んだと思っております。

今後においては、自主財源の比率38.6%を大きく超えるための取り組みを行い、持続可能な財政基盤を築いていただくことを願い討論いたします。

◎ 寄谷 猛男

私は、日本共産党を代表し、令和2年第1決算審査特別委員会に付託された「令和元年度滝川市一般会計歳入歳出決算」を可とする立場で討論を行います。まず初めに、「滝川市財政健全化計画」の最終年にあたり、事務事業の見直しによる効率化を図るなど、持続可能な財政基盤を築くための取り組みを推進された職員の皆様に敬意を表します。その先頭に立ち行政執行にあたられた市長、理事者の皆様にはさらなる奮闘を期待します。

以下、若干の意見を付して討論いたします。

1 歳入について

財源の確保・納税義務者の公平性を図るためにも収納率向上に努められたい。しかし、格差が広がる中で納税に苦しむ市民は多い。納税の減額・免除制度の周知徹底と適切な運用をさらに進めていただきたい。

2 総務費について

昨年度は石狩川滝川地区水害タイムラインの取り組み、避難所の見直しなど防災機能が強化され、住民が安心できるまちづくりが進みました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大で新たな課題を課されています。

住民のいのちを守るためさらなる防災体制の構築を進めていただきたい。新築住宅助成制度は、財政健全化計画に基づき休止状態にあるが、まちの成長力を確保するために策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、その成果と課題を分析し、今後のまちづくりに活かしていただきたい。

3 民生費について

扶助費等について不足が生じないよう予算を組むべきだが、それを活かすのは暮らしや福祉、育児のことなどを身近で相談できる民生委員あつてのことです。民生委員のなり手不足解消のため抜本的な対策を検討されたい。

4 衛生費について

市立病院が地域の基幹病院としての機能を果たしていけるよう市立病院事業会計に対する繰り出しは公営企業に対する繰り出し基準を維持していただきたい。

6 農林業費について

本市の基幹産業である農業は、食を支えるだけでなく、快適な生活環境の基礎、観光資源となる景観形成を担うものです。農業の多様な担い手の確保に向けた事業をさらに推進していただきたい。また、農用地などの保全管理や農村環境の適切な維持管理・景観形成などの活動を引き続き支援していただきたい。

7 商工費について

年度終盤は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が事業に及んだと推測されるが、引き続き商店街に対する支援を粘り強く実施されたい。

8 土木費について

移住定住を推進するために住宅改修支援事業・住み替え支援事業の果たしてきた役割・成果を踏まえ、移住定住事業をさらに推進していただきたい。令和元年度は稀にみる少雪であったが、冬期間の除排雪については、今後もさらに各機関との連携を進められ、歩道の確保と自動車の安全運転の妨げにならないよう努められたい。

以上、日本共産党の討論いたします。